

点歩

チェロの輝きにつつまれて

静まり返った会場に“カザルスの鳥の歌”が響き渡りました。カタロニア地方の鳥の鳴き声にヒントを得て作曲し、世界平和を祈りながら演奏し続けたというパブロ・カザルスの気持ちを再現するかのよう。

水谷川優子さんを湘南コンサートの会にお招きするという長年の願いがようやく叶ったものの、地球規模で活躍する優子さんとの音合わせの時間調整は大変だったようです。

“シューベルトの鱒”では、作品のテーマと演奏者の衣裳の色の調和にも気配りがあったようですが、潑刺としたハーモニーは、初夏の自然を髣髴とさせるものでもありました。

チェリストなら日課のように弾く曲といわれている“バッハの無伴奏組曲”を、演奏会プログラムに入れたのはカザルスが最初だそうです。目を閉じて、チェロと一体になって演奏する優子さんの、目にも止まらぬ速さの左手、それに答え



撮影 飯野 裕章

て躍動する右手の動きに見入りながらの鑑賞は、ほど良い広さと、素晴らしい音響構造で評判のリラホールだからこそ、かなったのかもしれませんが。

“ポッパーのハンガリー狂詩曲”は、チェロにとって超絶技巧の曲として、バイオリンのチゴイナーワイゼンに対抗するといわれますが、ピアノとの素晴らしい掛け合いや、ちりばめられたいくつものハンガリー民謡に心躍りました。チェロの長い指板の最先端で奏でられるビブラートに息をのむことも。

サン＝サーンス：幻想曲 作品 124
(バイオリン、ハープ)

サン＝サーンス (1835～1921) の幻想曲はバイオリンとハープのために 1907 年に作曲されました。優雅で幻想的なハープの響きに、美しく穏やかなバイオリンの旋律が魅力的な作品となっています。

ボッケリーニ：フルート五重奏 作品 5-1
(フルート、弦楽四重奏)

ボッケリーニ (1743～1805) はイタリアの作曲家であり、チェロ奏者でした。室内楽の作品が多く、彼の曲のチェロパートはチェロ奏者ならではの旋律が特徴的です。

カルロス・サルツェド：「夜の歌」(ハープソロ)

サルツェド(1885～1961)は、スペイン出身でアメリカで活躍した偉大なハープ奏者で、作曲家でもありました。卓越したヴィルチュオーゾ(名人)でしたので、今では普通に弾かれている様々な技巧を開発しました。

「夜の歌」は、ハープ曲の中でも特別な魅力を湛えた作品で、音の全てに意味があり、最後の音が空気に溶け込んでいくまで、はっきり感じる事が出来ます。

モーツァルト：フルートとハープの為の協奏曲
(フルート、ハープ、弦楽四重奏)

1778 年ド・ギーヌ伯とその令嬢の為にこのフルートハープの協奏曲は書かれました。この楽器の組み合わせの為のモーツァルト唯一の作品になります。華やかだけでなくどこか

オーケストラとの演奏が多い”フォーレのエレジー“の、チェロと弦楽だけという組み合わせは、曲想を辿るうえでも、またコントラバスがチェロをそっと支えているようで、とても心地よいものでした。

存分に弾き込まれた“チャイコフスキーのアンダンテカントービレ”、それに続くアンコールの“グノーのアヴェマリア”に、コンサート会場の大きな息遣いは、自然にもとの静寂に戻っていきました。

僅かな休憩時間をはさむだけで、全身全霊で感動を届けてくださった優子さんのバイオリティ、チェロを堪能するに願ってもないプログラムの編み方、そしてなにより、この日のために編成されたアンサンブルの皆さんが、大きな喜びをもって演奏に臨まれていたことが、素晴らしい音楽の時を紡ぎあげたのだと、私は思います。

時間がたった今も、“また ここで”と言われた時の優子さんの笑顔と、あの美しい響きが心に蘇ってくる、、、なんと幸せなことでしょう。このような機会がまたきつと訪れますようお願いしております。(会員 山田節子)

暖かい気持ちになる協奏曲です。

第1楽章 華麗な第1主題の後に(本来はオーボエですがこの度は弦楽器が担当します)バイオリン、ヴィオラが歌い出します。フルートの悲しく美しい旋律のあと、フルートとハープの華やかなカデンツァとなります。

第2楽章 弦楽器の美しい主題の後、フルートとハープが交互に歌い合い、静かに終わります。

第3楽章 明快な主題の後、ハープが登場します。フルートとハープで交互に舞い、新しい歌を歌います。終楽章にふさわしく、ハープとフルートの華やかなカデンツァがあり、終わりを迎えます。



藤沢市ふじさわ宿交流館でのコンサート

藤沢宿は東海道の江戸日本橋から数えて6番目の宿場です。その藤沢宿の歴史、文化等にふれられる藤沢市ふじさわ宿交流館にて、湘南エールアンサンブルの演奏が行われます。

11月18日(土) 14時～ 入場自由(無料)
バイオリンとチェロで贈る魅惑のデュオ
(曲目) 真田丸のテーマ、ヘンデル=ハルヴェオルセンのパスカリア他
バイオリン 石塚千恵 チェロ 福井綾

12月16日(土) 14時～
バイオリンとチェロとピアノで贈る～世界のクリスマス～
お問い合わせ
藤沢市ふじさわ宿交流館 TEL: 0466-55-2255
アクセス

電車: JR 藤沢駅北口より徒歩 14分
小田急藤沢本町駅より徒歩 15分
バス: 藤沢駅北口5番のりば「戸塚バスセンター行」または「俣野公園・横浜薬大前行」乗車、「藤沢橋」下車(所要時間約5分) 徒歩1分
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。



湘南台こども館プラネタリウム星空コンサート

湘南台こども館プラネタリウムにて、湘南エールアンサンブルによる大人向けのクリスマス星空コンサートが行われます。プラネタリウムの星空のもとで聴く、星にまつわる丁寧な解説と生演奏がコラボした人気の企画です。日常から離れた空間の中で、幻想的な気分を味わえます。

12月23日(土) 18時開場 18時半開演
クリスマススペシャル(大人向け) 入場料500円(要予約)
お問い合わせ
湘南台文化センターTEL: 0466-45-1500(9時から17時まで)
アクセス
小田急江ノ島線・相鉄いずみ野線・横浜市営地下鉄線(ブルーライン) 湘南台駅G出口から徒歩5分



～ハープの響きに包まれて～ 湘南生まれの小堀真梨が贈る優雅な午後

10月例会は、皆さまお馴染みのハープの小堀真梨さんです。独奏、室内楽、また皆さまご存知のモーツァルトのフルートとハープの協奏曲を弦楽四重奏での伴奏にてお楽しみいただけるプログラムとなっております。小堀さんの素敵なお人柄、また、品格に溢れた演奏の素晴らしさを是非、ご堪能下さい。

ヴォーン・ウィリアムズ: グリーンズリーブスによる幻想曲
(フルート、ハープ、弦楽四重奏)

ヴォーン・ウィリアムズ (1872～1958) の作品中、最も有名なもので、伝統的なイングランド民謡「グリーンズリーブス」に基づく小管弦楽のための小品です。エリザベス朝時代から知られるロマネスカと呼ばれる固有な美しい旋律がハープとともに懐かしく優雅です。初演は1934年9月27日ロンドンにおいてヴォーン・ウィリアムズ自身の指揮で行われました。

ビゼー: 「アルルの女」よりメヌエット
(フルート、ハープ)

ビゼー (1838～1875) のドレーの戯曲『アルルの女』の付随音楽として作曲されたものです。物語は南フランスのアルルに近い農村を舞台にした牧歌的な悲劇です。